

令和5年7月〇日(〇)〇校時

〇〇小学校 6年〇組教室

教諭 〇〇 〇〇

1 単元名 人物どうしの関係を考えよう「風切るつばさ」

2 単元の目標

〇人物どうしの関係を手がかりに、人物の心情を考えながら読むことができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における[思考力、判断力、表現力等]の「C読むこと」(1)イ「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。」である。

これまで児童は、登場人物の心情や性格、ものの見方や考え方など、複数の事柄をあわせて考え、人物像を想像することを学習している。本単元では、それらの既習事項を踏まえ、登場人物と人物の関係を手掛かりにして、登場人物の心情とその変化について考えることを学習していく。

本教材は、中心となる登場人物の心情がほかの人物との関わりを通して大きく変容する物語である。中心となる登場人物の心情が行動描写や心内表現に多く表れており、心情の変化が捉えやすい。さらに、登場人物が限られており、それぞれの関係や行動が中心となる登場人物に大きく影響を与えることが分かりやすく、登場人物の心情とその変化について考えることに適した教材である。

(2) 児童観

1学期実施「学習に関するアンケート」質問項目	肯定的に答えた児童の割合
国語の学習は好きですか。	65%
本や文章を読むことは好きですか。	70%
本や文章を読んで書かれていることが分かりますか。	92.5%
物語を読んで、登場人物の気持ちを考えることができますか。	75%
友達に「分からないところを教えて」と言えますか。	82.5%

男子〇名、女子〇名の学級である。実態調査の結果からは、本や文章を読んで書いてある内容を理解できると感じている児童が92.5%と多い。一方で、登場人物の気持ちを考えられると答えている児童は75%であり、乖離がみられる。説明文「イースター島にはなぜ森林がないのか」の学習では、森林がなくなった理由や筆者の主張を捉えることができていたが、筆者の主張の進め方の工夫を構造的に捉えることは難しいようであった。このことから、描写を基に心情やその変化を捉えることができるような具体的な手立てが必要である。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、人物同士の関係を手掛かりにして、登場人物の心情の変化を捉えたり、それぞれの人物の心情を深く理解したりするために、以下のような手立てを講ずる。

- ①人物同士の関係を正しく捉えるために、登場人物の心情やその変化が分かる部分にサイドラインを引かせる。
- ②登場人物の心情やその変化について考えを深めるために、サイドラインを基に作成した人物関係図を活用し、グループで考えを話し合ったり、比較したりする活動を設定する。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・図示することによって情報を整理することを理解し使っている。	・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 ・登場人物の人物像を具体的に想像している。 ・自分の考えが伝わるように、事実と感想や考えとを区別して書いている。	・学習経験や読書経験を振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、進んで登場人物の相互関係や心情などを捉えて、考えたこと伝え合おうとしている。

5 単元の指導と評価計画（本時4／7）…別紙

6 本時の指導について

(1) 本時の目標

- 第5場面のクルルとカララの関係を図にまとめ、クルルの心情を捉えることができる。

(2) 指導に当たって

①校内研究の視点

【視点1：単元全体の見通しを持った授業づくり】…別紙「学習計画表教師用」

【視点2：授業の視覚化・共有化】

手立て①サイドラインを引いた描写を基に、人物関係図に表すことでクルルとカララの間を捉えさせる。

手立て②付箋紙に自分の考えを書かせ、共通点や相違点を整理し、グループごとに考えをまとめられるようにする。

(3) 配慮を要する児童(A児)の実態と手立てについて

国語の学習では、教師の発問を理解することはできるが、どのように取り組んだらいいかわからず、手が止まっていることがあるため、個別の声掛けが必要である。また、心情を考える際には、文意に沿わない記述や簡単な言葉で自分の考えを書いてしまうことが多い。本時では、人物関係図を活用して、登場人物の心情について考え、グループで考えを深めていく。グ

ループの話合いの中で友達の考えをよく聞き、共感したり、違う意見を聞いたりしながら、自分の考えを持つことができるようにさせていきたい。

	対象児の実態	視点の手立て
視覚化	物語の内容は理解できるが、登場人物の心情を、描写を基に考え、文章で表現することが難しい。	・付箋に書いた気持ちの根拠となる描写がどこかを確認、人物関係図②と比較してどのように気持ちが変わったかを、教師との対話を通して考えさせる。
共有化	話合い活動では、自分の考えを持ってずに友達の考えを聞いているだけになってしまう。	・友達の考えを聞き、共感した考えや納得できた考えを選ばせるようにする。

(4) 評価の観点

	本時の具体的評価規準	十分満足できる児童の姿	満足できる児童の姿	努力を要する児童への手立て
表現力・判断力	第5場面のクルルとカララの関係をもとめ、登場人物の心情を描写を基に捉えている。	描写を基にしてクルルとカララの間を捉え、友達の考えと比較しながら登場人物の心情を捉えている。	描写を基にしてクルルとカララの間を捉え、登場人物の心情を捉えている。	前時までの人物関係図を振り返り、キーワードを確認し、描写したイメージを基に読み掛ける。

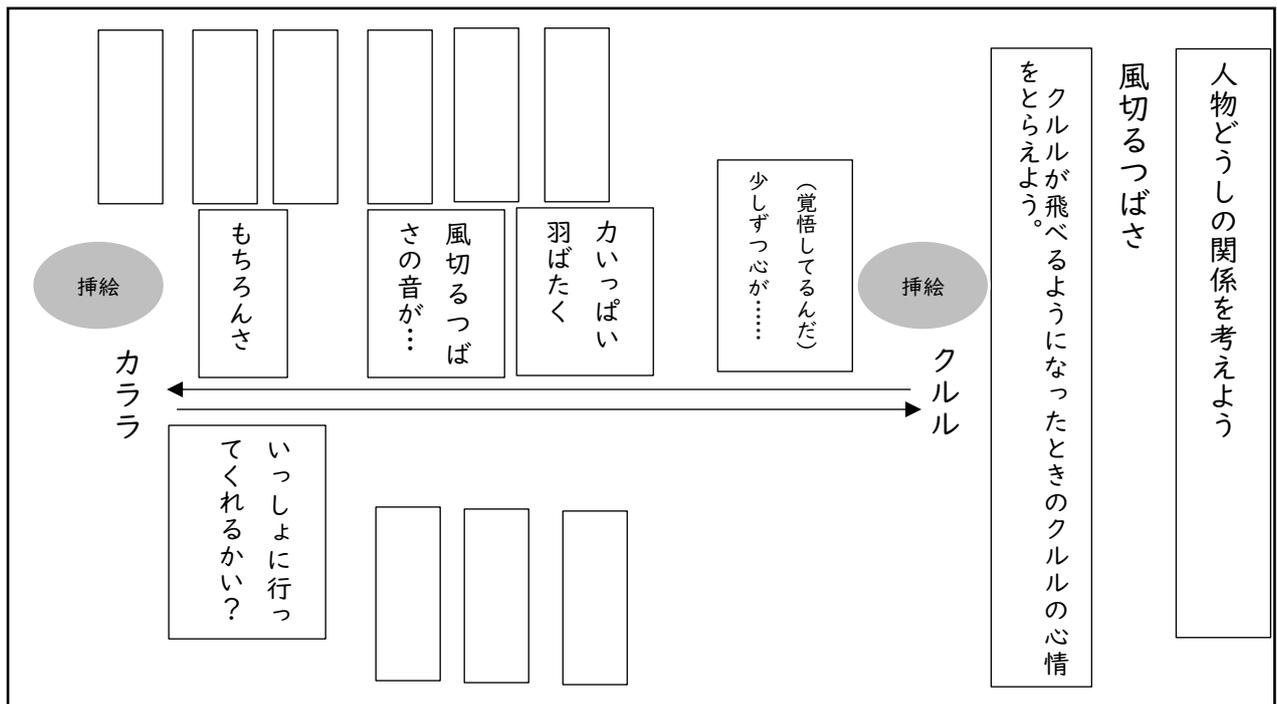
(5) 準備物

児童：教科書、人物関係図のワークシート、付箋、筆記用具

教師：教科書、デジタル教科書、黒板掲示物、掲示用挿絵、短冊

(6) 指導過程…別紙

(7) 板書計画



(6) 指導過程 (本時 4 / 7)

段階	<p>主な学習活動と活動形態 <u>主な発問</u>・予想される児童の反応</p>	<p>・指導上の留意点 ※個別の支援 【】 視点</p>	<p>〔〕 評価・方法</p>
<p>導入 10分</p>	<p>1 単元全体のめあてを確認し、前時の振り返りをする。(全体)</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="245 607 681 696" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>飛べるようになった時のクルルの心情を考えよう。</p> </div>	<p>・児童が本時の学習の見通しを持つことができるように、拡大した学習計画表を提示する。【視点1】</p> <p>・クルルとカララの挿絵を黒板に貼る【視点2：視覚化】</p> <p>※あまり思い出せない児童には、前時までのワークシートを見てよいことを伝える。</p>	
<p>展開 30分</p>	<p>3 第5場面を音読する。(全体)</p> <p>4 クルルとカララの間を人物関係図③にまとめる。(全体)</p> <div data-bbox="245 869 681 965" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>飛べるようになる前、クルルの気持ちが動いたことが分かる部分はどこでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・(こいつ覚悟しているんだ)の部分だと思う。 ・「クルルの少しずつ溶けていく気がした」の部分で、カララに対する気持ちの変化がわかると思う。 ・(おれが飛ばないとこいつも…)のところだと思う。 <div data-bbox="245 1200 681 1296" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(おれが飛ばないとこいつも…)の「……」の続きは、どんな言葉だったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「一緒に死ぬつもりなんだ。」だと思えます。 <div data-bbox="245 1397 681 1494" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>飛べるようになった後に、クルルの様子が分かるのは、どの部分でしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「かいっぱい羽ばたく」です。 ・「ぐんぐんとのぼっていく」でも飛べることの喜びが感じられます。 ・前の場面では自分の羽ばたく音が嫌になっていたけど、「心地よいリズム」に変化しています。 <p>5 作成した人物関係図③をもとにして、クルルとカララの心情を捉える。(個人→グループ)</p> <div data-bbox="245 1839 681 1935" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>飛べるようになった後に、クルルとカララが通じ合ったと分かるのは、どの部分でしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「一緒に行ってくれるかい?」「もちろんさ。」のところだと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時でまとめた人物関係図②を基にして、飛べるようになる前のクルルの気持ちに変化した部分を捉えさせる。 ・「覚悟」とは何なのかも確認する。 ・飛べるようになった時のクルルの喜びや飛ぶことに対しての明るいイメージがわかる描写を捉えさせる。 ・前場面の「自分のつばさの音すらみっともない雑音に」「体が舞い上がらない」の描写と対比させるようにする。 ・「一緒に行ってくれるかい?」「もちろんさ。」の会話文を提示し、この時のクルルの心情を捉えることを理解させる。 	<p>[思：第5場面のクルルとカララの間を人物関係図にまとめ、クルルとカララの心情を捉えることができる。] 話し合い・発表・ワークシート</p>

	<p>クルルが飛べるようになった時のクルルの心情を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カいっばい羽ばたくと」というところから、飛べるようになって嬉しいという気持ちになったと思う。 ・「クルルの心が少しずつ溶けていく気がした」のところ、カララの気持ちが伝わって、飛ぶ力が湧いてきたと思う。 ・「風を切るつばさの音が……」のところで、飛べる喜びやカララを助けられてよかったという気持ちになったと思う。 ・前の場面で「ただじっととなりにいて」とあったので、カララは謝って許してもらおうと思っていたいなかったと思う。だから、クルルが飛べて安心したと思う。 <p>6 考えを共有する。(全体)</p> <p>グループごとに、考えたことを発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でクルルの心情を捉えて付箋に書き込ませた後、グループ内で発表し、グループで一つの意見にまとめさせる。 ・グループ内での発表の際は、付箋に書いた内容に、そう考えた根拠となる描写も発表するように指示する。 <p>A見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋に書いた気持ちの根拠となる描写がどこかを確かめ、人物関係図②と比較してどのように気持ちが変わったかを、教師との対話を通して考えさせる。 <p>考えをまとめる際には</p> <ol style="list-style-type: none"> ①飛べるようになった時のクルルの気持ちわかる部分(教科書の描写) ②飛べるようになったときのクルルの気持ち(人物関係図③) <p>の順にまとめさせ、全体に発表できるようにする。【視点2：共有化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えをまとめる際、誰か一人の考えにしぼるのではなく、複数の考えをつなげてもよいことを伝え、グループの中で合意形成を得られるような考えにできるように指示する。 <p>※机間支援を行い、クルルの心情を捉えられないグループには、人物関係図②のクルルの心情に注目して考えるように助言する。</p> <p>A見</p> <p>※話を聞く時の観点を明確に示し、グループの話合いに参加できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クルルの心情を捉えることができた児童には、カララの心情についても捉えるように指示を出す。 ・グループでまとめた考えを短冊に書かせ、発表させる。 ・全グループの発表の後、似た考えや異なる考えを整理していく。 	
<p>終末5分</p>	<p>7 本時の振り返りをする。(全体)</p> <p>学習計画表に今日の感想を書いて、振り返りをしましょう。</p>	<p>児童が今後の学習の見通しを持つことができるように、拡大した学習計画表を提示する。【視点1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時では、物語全体を通してのクルルとカララの心情の変化を読み取っていくことを伝える。 	